

2018年 春号

FAMILY

ファミリー





卒業証書授与式

平成30年3月10日(土)はくほう会医療専門学校第2回卒業証書授与式が赤穂校にて執り行われました。

理学療法学科32名、作業療法学科20名が卒業証書を授与されました。春からの皆様の活躍を期待しています。卒業生の皆さん、卒業生の学業をいつも支えて下さったご家族の皆様、本当におめでとうございます。



卒業生の声

第3期生 理学療法士 高取 達也 さん

私が理学療法士になったのは知人の看護師に勧められて、カッコいいと思っただけの単純な動機でした。学生時代の実習は想像以上に難しいもので、大変な思いもしました。積極性が無いという理由で不可判定を貰い、再実習になった事もありました。ですが、この経験は私自身大変いい経験となり、今ではその気持ちを忘れず常に積極的に患者様に向かいながらリハビリテーションを提供できていると自負しています。何事にも負けずに立ち向かうことで結果的にいい物(経験)を得る。学生の皆様もそんな経験を学生生活で沢山してってください。

卒業後も患者様の為に一生勉強が必要な仕事だと思いますが、学生の皆様の力を必要としている患者様がまだまだ待っています。自己研鑽に励みながら元気な社会を一緒に作っていきましょう！



第8期生 作業療法士 中村 美智子 さん

私は、学校を卒業してから精神科に勤める3年目の作業療法士です。病院では女性の急性期病棟を担当しています。幅広い年代の方たちが入院しています。精神科では、集団リハビリを実施することが多いのですが、1対1の個別でリハビリを行うこともあります。個別リハビリの中には骨折や脳卒中による半身麻痺など、身体リハの依頼もあります。精神科だから整形外科だからと、その専門分野だけでなく精神・身体両方のリハビリを実施する必要性があり、臨機応変に対応していかななくてはなりません。

在学中の方々もどちらにも対応していけるように、座学・実技ともにしっかりと勉強頑張ってください。



学 園 祭



平成29年11月11日(土)、学園祭が行われました。当日は、模擬店や有志の出し物など楽しいイベントが行われ、学生・教員ともに楽しい一日を過ごしました。



教員 の 星



理学療法学科
中村 めぐみ

昨年4月に入職し、もうすぐ1年が経とうとしています。

教員としての1年目は初めてづくしの毎日であり、同僚の先生方にご迷惑をおかけしながら助けていただき、この1年間を過ごしてきました。私は本校の2期生でもあり、学生当時は教員としてまたお世話になるとは夢にも思っていませんでした。学校は当時の雰囲気とは変わってはいますが、3年間勉強し、思い入れがあるこの学校でまた働かせていただいていることに感謝しています。この1年を振り返り、学生と接している中で、何が正しくて、何が間違いなのか... 自問自答の繰り返しの日々であり、様々な事を考える1年となりました。まだ答えを見つけることは出来ませんが、その時々学生にとって最良の選択が出来る様にしたいと考えています。

4月より教員2年目となります。たまに怒ったり、落ち込んだりもすると思いますが(笑)、学生と共にたくさん笑い、たくさんの事を学び、日々成長していきたいと思っています。



実習を終えた3年生は看護学科と合同カンファレンスを行いました。卒業後に求められるチーム医療の担い手になるために、学生の時から多職種連携を学ぶ機会は登校のカリキュラムの特徴でもあります。

当日は明石リハビリテーション病院の職員からもご指導をいただきながら、より深い充実した話し合いが行われました。

同窓会便り

平成29年10月21日、勉強会・同窓会を開催いたしました。

特別講演講師として姫路獨協大学 村上仁之准教授をお招きし「脳神経科学・認知神経リハビリテーション」をテーマにご講演して頂きました。また、セミナーとして株式会社スイッチオンサービス 代表取締役 石川智昭先生に「生活期の理学療法の未来」をテーマにご講演して頂きました。また、事例検討会では当校の亀山一義先生や新人の卒業生に発表して頂き、先輩・後輩・学生が意見交換を実施し、有意義な時間を過ごすことができました。

同窓会としては、毎年1回は勉強会を開催し、同窓生が意見交換できる場を設定したいと考えております。是非、ご参加ください。



最大168万円の学費が
ハローワークより支給！

作業療法学科は、厚生労働省の定める専門実践教育訓練の指定講座に認定されています。これにより最大168万円の学費がハローワークから支給されます。詳細は学校ホームページをご覧ください。

**JATI認定トレーニング
指導者養成コース開講！**

理学療法学科は、日本トレーニング指導者協会のトレーニング指導者養成校に認定されました。この資格によって、競技スポーツやフィットネス分野での活躍がより期待されます。詳細は理学療法学科教員までお問い合わせください。

編集後記

2月に開催された平昌冬季五輪スピードスケート女子500m・金メダリストの小平奈緒選手が、インド独立の父であるマハトマ・ガンジーの「Live as if you were to die tomorrow. Learn as if you were to live forever. ~明日死ぬかのように生きよ 永遠に生きるかのように学べ~」という言葉が座右の銘にしているという記事を見た。この言葉を目にした時、自分自身の奥深くに突き刺さるものがあった。中には何も感じないという人もいると思うし、明日死なない可能性の方が大きいし、永遠に生きないし、と思う人もいると思う。感じ方は様々だと思ふ。

世の中にはいろいろな格言や名言があるが、その言葉が響くか響かないかはその時の自分の気持ち次第である。今、この言葉が突き刺さった私には自分の中に少なからずこの言葉に対する後ろめたさがあるのだと思う。この言葉は私にとって、日々生活する中で何のために生きるのか、どう生きるのかということ、新年度が始まろうとする前にあらためてもう一度考える機会を与えてくれ、初心を思い出させてくれる言葉となった。(中村)

**今後の予定
入学式**

4月7日

前期授業開始

4月2日～

宿泊研修(1年)

4月14日、15日

前期期末試験

7月17日～